

公表 第58回 技能五輪全国大会『自動車板金』職種 持参工具一覧表

【持参工具】

区分	品名	寸法・規格・使用方法	数量	備考
工具 道具 測定具	スケール	直尺・曲尺・自在定規を含む。	適宜	けがき・測定用
	ノギス		適宜	けがき・測定用
	ハイタゲージ	トースカンを含む。	適宜	けがき・測定用
	すきまゲージ	シックネスゲージ(テーブ)・ビングエージ・テーパゲージを含む。	適宜	けがき・測定用
	スコヤ		適宜	けがき・測定用
	ペベルプロトラクタ	分度器、角度計を含む。デジタル式も可とする。	適宜	けがき・測定用
	けがき針		適宜	けがき・測定用
	センタポンチ		1	けがき・測定用
	コンパス		適宜	けがき・測定用
	ブロック	鋼製直方体(中実)であること。木製当盤との組合せは禁止する。測定定盤上でのみ使用可とする。	5	けがき・測定用
	測定定盤	最大寸法は 600.0mm × 900.0mm 以内とする。	1	けがき・測定用
	やすり	紙やすり・バリ取り用工具を含む。	適宜	
	金切りはさみ		4	
	切りたがね		1	
	影たがね	最大刃長は、80.0mm以内、使用面は一面で凸形状とする。	6	
	片手ハンマ	各種基本形状のもの。	20	材質は問わない
	板金ハンマ	打撃可能な工具は、切りたがね・影たがね・センタポンチとする。		
	木ハンマ			
および 支柱 測定盤	*ならし金敷き	頭部の最大寸法は S φ 120.0mm 以内とする。 個々の総重量は 6.0kgf 以内で凸形状とする。	8	支柱は使用しない
	*心金	支柱を含めた最大長さは 500.0mm 以内とする。 横断面形状は均一とし、最大寸法は φ 80.0mm 以内で凸形状とする。 端部の角は、R 10.0mm 以内とする。(全周同一 R とする。) 支柱は、端面に取付けるものとする。		
	*木製当盤	一辺の最大長さ 300.0mm 以内、横断面の最大寸法は φ 150.0mm 以内とする。 凸形状とする。 当盤同士の組合せおよび木うすとの組合せは禁止する。 競技中の修正は禁止する。	5	樹脂製も可
	板金定盤	最大寸法は 600.0mm × 700.0mm 以内とする。	1	
	木うす	使用面の最大径は φ 500.0mm 以内、使用面は 1 面とする。 彫込み内に、凹凸を設けないこととする。また、彫込みの斜面に設ける R は 2 つまでとする。 本体の上面と側面のエッジの面取りは、C3 または R3 までとする。 競技中の修正は禁止する。 木製当盤・ブロックとの組合せは禁止する。 マグネットベースを固定するための彫込みは禁止する。	1	樹脂製も可
	砂袋		1	
	ゴム板	板厚は 5.0mm 以内、形状は正方形または長方形とする。 競技中、工具へ貼り付けての使用は可とする。木うす内の使用は不可とする。 マグネットシートを含む。 事前けがきは禁止する。	適宜	
	けがき用シート	板厚は 0.50mm 以内、200.0mm × 200.0mm 以内の正方形または長方形とする。 事前けがきは禁止する。	2	樹脂製
	マグネットベース	角度付(角度可変も含む)も可とする。木うすの彫り込み部分での使用は不可とする。	適宜	
	プライヤ	やっこ、バイスプライヤ、C 型クランプを含む。 持参工具や作業台との固定は禁止する。 成形加工(直接工具としての)には使用しない。	適宜	
その他	電気ドリル一式	バッテリ式も可とする。割れ止め用ドリル(φ 3以下)、ホールソー(φ 30以下)、穴あけ用当て木	一式	
	作業台	万力	一式	
	ガス溶接装置一式	調整器、アセチレンホース用オース型ワンタッチ接手(小池酸素 AP-2 同等品)、ホース、吹管、火口、溶接作業台、吹管立て、イス、手袋、保護メガネ、ライタ、保護具等	一式	酸素、アセチレンは主催者で準備する
	ウエス	布ウエス、紙ウエス、不織布ウエス	適宜	
	ビニールテープ	ガムテープ、両面テープを含む。 加工中製品を拘束する使用方法は禁止する。	適宜	
	養生用テープ	養生用シート(板厚 0.20mm 以内)を含む。 きず防止用、事前けがきは禁止する。	適宜	製品原寸形状は、不可
	筆記用具等	ペン、ハサミ、時計、電卓、消去液、防錆油、カッタナイフ、工程表、メモ用紙、新明丹	適宜	製品原寸形状は、不可
	調整用工具	六角棒スパナ、スパナ、モンキレンチ	適宜	ならし金敷き・心金用

※注意事項

- 1 数量は最大数であり、使用しない場合は持参しなくてもよい。
- 2 工具で縫型などに該当するとみなされるものは持参を認めない。
- 3 万力に固定できる工具は * がついているものとする。(製品の固定は、不可とする)
- 4 ハンマで打撃可能な工具は、切りたがね・影たがね・センタポンチとする。
- 5 必要に応じて、床焦げ防止対策資材を用意すること。
- 6 ガス溶接技能講習修了証を持参すること。